

八雲立つ日本・出雲から陽が昇る 対立から共生の文化へ

小松電機産業株式会社・人間自然科学研究所の活動を背景に、安重根・伊藤博文・ズットナー・周藤彌兵衛翁を現代に蘇らせ、対立から共生の文化を拓き、地方創生の世界・全国モデルとして世界縁結び「水と火と健康寿命の聖地」構想の実現を「八雲立つ日本・出雲」から全国世界へ発表。この度、中国の科学技術の発展のために創設された社団法人日中科学技術文化センター創設者であり、日中物流合作連盟会長を務められる韓慶愈（かんけいゆ）氏と、オーストリア公認国家ガイドを務め、松江講演 6 回、日本講演 100 回を迎えられるイップ常子氏をお招きし、対立から共生の文化ヘシンポジウムを開催。シンポジウム開幕にあわせてプロの演奏家によるハープ・ヴァイオリン・フルートの演奏をお聴きいただけます。



韓慶愈
東方文明振興会 会長
日中物流合作連盟 会長



イップ常子
オーストリア公認
国家ガイド



門馬正
マテリアルワールド (株)
Senior Manager



佐藤徹郎
編集者



磯江公博
(社) 防災行政無線研究所 理事長
(株) エナテクスファーム 代表取締役



小松昭夫
小松電機産業 (株)
人間自然科学研究所
代表取締役



魏亜玲
小松電機産業 (株)
人間自然科学研究所 理事

令和元年

11月30日(土)

テレビ会議参加

時間 13:00 ~ 17:00 開場 12:30

場所 太陽ホール (小松電機産業内)



エムチャニン スイボン
マテリアルワールド (株) 社長
(タイ)



尹熙竣
(株) 小松コリア 共同代表理事
(韓国)



司会: 浜葉みやこ
「おはようサンデー」
ラジオパーソナリティ

13:00 ~ プロの演奏家による
ハープ・ヴァイオリン・フルートの演奏



篠崎史子
ハープ奏者



破魔澄子
ヴァイオリニスト



トーマ・プレヴオ
フルート奏者

13:15 ~ 主催者挨拶

13:20 ~ 韓慶愈 基調講演

テーマ「私の一帯一路の夢」

14:10 ~ イップ常子 基調講演

テーマ「日唄 (オーストリア)
修好 150 周年を記念して」

15:00 ~ 屋外記念撮影後、休憩

15:20 ~ パネルディスカッション
テーマ「対立から共生の文化へ」

コーディネーター: 小松昭夫
パネリスト: 佐藤徹郎、門馬正、磯江公博、魏亜玲
尹熙竣 (韓国)、E.Suthipong (タイ): テレビ会議参加

【講師プロフィール】

◇韓慶愈



1926 年中国遼寧省生まれ。1943 年、戦時下の日本に留学。戦後、国際新聞東京支社にて記者をしながら 1953 年東京工業大学卒業後、華僑新聞「大地報」を創刊。中国人留学生の愛国学習運動に積極的に参与し、中国留日同学総会の主席に就任。卒業した留学生と在日同胞の帰国支援に加わり、新中国誕生後も韓氏は日本に残って華僑関連事業に従事。「近代の中国人による日本留学史の生き字引」と呼ばれる。



詳細プロフィール
PDF: 1.9MB

◇イップ常子

1973 年ウィーン大学に留学。1974 年に結婚し、3 人の子供たち家族と 6 人の孫たちに囲まれウィーン在住 46 年。2001 年オーストリア公認国家ガイド資格取得。オーストリアと日本の懸け橋として、主に相互の文化交流イベントをはじめ、オーストリア国内、ドイツ、チェコ、ハンガリー、スロバキア、スロベニア、クロアチアなど近隣国への観光案内、通訳に従事。2009 年ロングステイ・オーストリア社設立。2010 年からオーストリア・ウィーンに関する講演を日本各地で開催し、この度の松江で 100 回記念講演を行う。



講演会
イベントページ

ご芳名	ご住所	TEL/FAX	メールアドレス



人間自然科学研究所

TEL/050-3161-3846 FAX/050-3161-3846
メール webmaster@hns.gr.jp 小松電機産業株式会社

日本の縁結びから世界の縁結びの地へ
平和の事業化を通じて対立から共生の文化へ

イマジン・ピース・タワーから生まれた
光の柱プロジェクト

沖縄

糸満市
沖縄平和祈念公園

島根

松江市
人間自然科学研究所

鳥取

湯梨浜町
中国庭園 燕趙園



「平和の礎」大田昌秀沖縄県知事が戦後50年の節目に建立



2019.6 対立から共生の文化ヘシンポジウム・宍道湖湖岸2体の袖師地藏前で全国世界水の偉人覚醒顕彰祭を開催



孔子像

日本唯一の孟子像

西王母と八仙人像

孫子像



2019.9 オペラ「忘れられた少年—天正遣欧少年使節」ポーランド巡演 ワルシャワ 聖十字架教会

キーワードを入力



トップ

速報

映像

個人

特集

意識調査

ランキング

有料

松江の地方拠点企業が表彰＝世界平和活動で〔地域〕

11/1(金) 10:21配信

JICI.COM 時事通信社



岡倉天心国際賞を授与される小松代表取締役（右）＝10月26日午後、東京都千代田区

小松電機産業（松江市）の小松昭夫代表取締役が、地方に拠点を置く企業の経営者として地道な世界平和活動に尽力してきた功績を認められ、国際アジア共同体学会から岡倉天心国際賞を授与された。都内で表彰式と記念講演が催された。

小松氏は、全国の地方自治体や関連施設向けの上下水道制御システムなどを提供する事業を松江市で営むかたわら、1994年に人間自然科学研究所を設立し、韓国や中国などでの市民交流や「対立の文明から共生の文化へ」をテーマとした研究、出版、講演活動などを手掛けている。

記念講演で小松代表は「出雲発の日本の縁結びを世界の縁結びにつなげたい」と今後の活動への抱負を語った。

山陰中央新報

2019年（令和元年）11月16日（土曜日）

「岡倉天心国際賞」を受け、あいさつする小松昭夫さん
東京都千代田区、専修大



国際平和活動に貢献
松江の小松さん表彰
学習や献花を継続
国際問題の研究者などをつくる「国際アジア共同体学会」（約300人）の秋季大会が東京都内であり、国際平和への実践活動をたてる「岡倉天心国際賞」に、シートシャッター製造大手の小松電機産業（松江市乃木福富町）社長の小松昭夫さん（75）が選ばれ、表彰を受けた。

小松さんは1973年に同社を起業した。事業展開する傍らで、1994年に「人間自然科学研究所」を設立し、理事長として世界の戦争・平和記念館を訪問しながら、学習や献花、寄付を継続して島根県内でシンポジウムなどを開催している。

実績が認められ、2013年にオランダ・ハーグ市の平和宮100年記念式典で米IT大手マイクロソフト創業者のビル・ゲイツ氏などとともに「平和事業家、世界の20人」に選ばれた。岡倉天心国際賞は同学会が初めて設けた。賞状を受けた小松さんは緊迫化する日中、日韓関係を挙げ「対立から共生の文化に変えたい」とあいさつした。

（白築昂）

平和願う像フィリピンへ

安来・加納美術
振興財団制作

3月から現地で展示

フィリピンの日本人戦犯「赦し難きを赦す」という平和思想の広がりを願う。105人に恩赦を与えた故キリノ元大統領の家族をモチーフにした平和を願う像が、同国のモンテンルパ博物館で3月から展示されることになった。加納美術振興財団(安来市広瀬町布部、加納二郎理事長)が制作し、日本兵に殺された大統領の夫人と子ども3人を悼み、天使になった姿を表現。関係者は日比友好とともに、キリノ元大統領が示した

「赦し難きを赦す」という平和思想の広がりを願う。同財団は、キリノ元大統領に日本人戦犯の助命嘆願を続けた安来市広瀬町出身の画家・加納莞菴(1904〜77年、本名・辰夫)の作品を所蔵する市加納美術館を運営している。加納理事長(76)の妻で、莞菴の四女・佳世子さん(74)が名誉館長を務めている。

シア夫人の周りを2人の子どもが舞う光景を表し、優しく慈愛に満ちた作品に仕上げた。加納美術館は同じモチーフの作品を所蔵しており、加納夫妻が昨年、この像をキリノ家に贈呈したいと作者の安部さんに相談。安部さんは新たな像の制作を提案し、4カ月余りかけて完成させた。15〜24日に加納美術館で特別展示した後、フィリピンに空輸する。

石粉粘土製の像「平和への祈り」アリシアと3人の愛児たち」は高さ75センチで、米子市在住の人形作家・安部朱美さん(69)が手掛けた。赤ちゃんを抱いたアリ



近藤宏樹市長(左)に像の完成を報告する関係者たち―安来市安来町、市役所



故キリノ元大統領の家族をモチーフにした「平和への祈り」アリシアと3人の愛児たち」

首都マニラに近いモンテンルパ市で3月1日に開館する公立博物館が収蔵する。キリノ元大統領と莞菴をテーマとした専用スペースを設け、莞菴直筆の書簡などと共に展示する。

加納夫妻や安部さんら関係者5人が14日、安来市安

来町の市役所を訪れ、近藤宏樹市長に像の完成を報告。博物館の開館式典に出席予定の加納理事長は「憎しみの連鎖を断ち切ったキリノ元大統領と莞菴の思いが、世界に広がるきっかけになればうれしい」と話した。(渡部豪)



Japanese doll statue of Quirino’s wife, children in Muntinlupa Museum

March 1, 2019

A Japanese art piece to promote peace was placed in the newly-built “Museo ng Muntinlupa” (Museum of Muntinlupa) on Friday.

The doll, called “Pray for Peace: Alicia and her three children”, was inspired by the family of former President Elpidio Quirino, who gave clemency to the Japanese soldiers detained at the New Bilibid Prisons n Muntinlupa City in 1953.

According to its sculptor, Akemi Abe, it not only symbolizes the family of Quirino whose wife and children were killed but to all Filipino victims during the Japanese occupation.

She said in order to cut the cycle of hatred one must show forgiveness.

“That’s why I named it Pray for Peace because as they are in the process of going to heaven but while going, they are praying for peace,” said Abe in an interview with The Daily Manila Shimbun.

Abe said she is honored to be part of this project and be present in Friday's event.

The doll statue was donated by the Kano Museum of Art from Shimane, Yasugi City in Japan to the Quirino Foundation which gave it to the museum for the public to see it.

One of the guests is the daughter of Tatsuo Kano, one responsible for the granting of clemency to the Japanese prisoners of war after sending petitions letters to Quirino on 1949.

In July 1953, Quirino finally granted executive clemency to those charged with war crimes, including 114 Japanese prisoners of war.

“My father has been sending petition letters to President Quirino since 1949 asking for a clemency for the Japanese wars criminals,” Kano Museum of Art Honorary Director Kayoko Kano

<https://manila-shimbun.ph/top/japanese-doll-statue-of-quirinos-wife-children-in-muntinlupa-museum.html>

said in her speech during the museum’s soft opening.

“President Quirino gave the pardon to Japanese POWs as gesture in response to the idea of my father who thought forgiveness shall be the start of the friendship among two countries,” she added.

Kano said she is happy that Filipinos will be able to see the petition letters wrote by her father as it will be displayed at the 2nd level of the museum with the doll statue.

“Such gesture should not be forgotten by the Japanese,” she said.

“I wish from my heart that peace around the world, including the Philippines and Japan will last forever,” she added.

Cory Quirino, representative of President Elpidio Quirino Foundation, said they are very grateful and touched with the gesture of the Kano family.

“This beautiful madonna represents not just love but also forgiveness,” Quirino said.

She said they are even happier after Mayor Jimmy Fresnedi said the city of Muntinlupa are open to have a “sister city agreement” with Yasugi City.

“The presence of the Kano family has formalized this dream and we hope to pursue this dream and make it a reality. We are ever grateful and we will continue to keep that memory and that friendship alive between Kano family and Quirino family. To keep our history alive that we will never forget,” she added.

Other memories of the Japanese occupation in Muntinlupa City can be found on the 2nd level of the 5-storey museum located at Centennial Avenue in Barangay Tunasan.

The museum has yet to be opened to the public. **Ella Dionisio/DMS**

SUBSCRIBE COMING SOON



The Daily MANILA SHIMBUN

The Daily Manila Shimbun (DMS) was first distributed in Metro Manila on May 3, 1992 as the Kyodo News Daily (KND)

READ MORE

QUICK LINKS

- HOME
- ABOUT US
- The Daily Manila Shimbun Story
- Video
- MONEY CURRENCY
- WEATHER
- CONTACT US

CATEGORIES

- News
- Japan News
- Features
- Business
- Sports
- Lifestyle

CONTACT US

ADDRESS
Room 113 Tower Ground TG (4/F), Makati Cinema Square Tower,
Chino Roces, Makati City, Metro Manila, Philippines

TELEPHONE
(02) 551-8238／807-8918

© 2017 The Daily Manila Shimbun

キリノ氏の妻子平和像、日本からモンテンルパ市博物館へ寄贈

2019 年 3 月 1 日

新築されたモンテンルパ市博物館で、1 日、日本から平和促進のために寄贈された美術品が展示された。「平和の祈り」と題されたこの人形の像は、モンテンルパ市のニュー・ビリビッド刑務所の四人に対し、エルピディオ・キリノ元大統領が、アリシャ夫人と 3 人の愛児を殺害されたにも拘らず恩赦を与えた話に感動して作られた。作者の安部朱美さんは、次のように述べている。この像は、妻子を殺害されたキリノ大統領一家のシンボルであるのみならず、日本による占領時代に犠牲となったすべてのフィリピンの人々に捧げるものである。

憎しみの鎖を断ち切るには赦しの精神を示すことが不可欠である、と彼女は言う。

「だからこそ、私はこの群像に『平和の祈り』という名前を付けました。彼女たちは天国へ行きながら、平和を祈っているのです」と、『デイリー・マニラ新聞』の記者に安倍氏は語った。「私はこのプロジェクトに参加し、今日この催しに出席できて光栄におもいます。」

この作品は、日本国島根県安来市の嘉納美術館からキリノ財団に寄贈され、市民に公開するため、財団からモンテンルパ市博物館に再寄贈されたものである。

来客の一人は、画家加納辰夫（かん ちゆう）の娘である。加納辰夫は、1949 年から日本人戦犯の釈放をキリノに訴える手紙を送り続けた一人である。

1953 年 7 月、キリノは戦犯として囚われている人々に恩赦を与える決意をした。その中に、日本人 114 人の戦犯も含まれていた。

博物館の非公式開館式で、加納美術館名誉館長を務める加納佳世子氏は語る。「父は、1949 年から、日本人戦犯の恩赦を求める手紙をキリノ大統領に送り続けました。赦しこそが（日比）両国の友好のスタートになるだろうとの父の考えに大統領は同意し、日本人戦争捕虜を赦してくれました。」

彼女は続けた。「平和の人形像と一緒に、父の手紙が博物館の 2 階に展示され、貴国の方々に見てもらえるのは嬉しいことです。このような（友好の）証を、日本人は決して忘れてはなりません。日本とフィリピンを含む世界が、いつまでも平和でありますよう、私は心から願っています。」

エルピディオ・キリノ財団のコリー・キリノ代表はこれに対し、「私達は、加納家の人々の心遣いにとっても感謝し、感動しています。この美しいマドンナの像は、愛だけではなく赦しも表しています。」と述べた。

彼女は続けて言った。「モンテンルパ市長ジミー・フレスネディ氏が、安来市との姉妹都市提携に前向きである、とお聞きし、とても嬉しく思います。こうして加納さんをお迎えしたことで、この夢を正式にかなえることができるようになったと思います。加納家とキリノ家の間で、お互い感謝しあいながら、思い出を忘れず友情を育んでいくのは、なんと素晴らしいことでしょう。それは、歴史を忘れず活かしていくということです。」

モンテンルパ市博物館は、バランガイ・ツナサン地区のセンテニアル通り沿いに位置し、日本占領時代の遺品は 5 階建て博物館の 2 階に展示されている。博物館の公式オープニングはまだ先である。（エラ・デニス記者/DMS）

最新ビデオ映像（訳者注：下の英文の末尾に青い文字で Latest Videos とある。）

.....

<原文>

Japanese doll statue of Quirino's wife, children in Muntinlupa Museum

March 1, 2019

A Japanese art piece to promote peace was placed in the newly-built "Museo ng Muntinlupa" (Museum of Muntinlupa) on Friday.

The doll, called "Pray for Peace: Alicia and her three children", was inspired by the family of former President Elpidio Quirino, who gave clemency to the Japanese soldiers detained at the New Bilibid Prisons in Muntinlupa City in 1953.

According to its sculptor, Akemi Abe, it not only symbolizes the family of Quirino whose wife and children were killed but to all Filipino victims during the Japanese occupation.

She said in order to cut the cycle of hatred one must show forgiveness.

"That's why I named it Pray for Peace because as they are in the process of going to heaven but while going, they are praying for peace," said Abe in an interview with The Daily Manila Shimbun.

Abe said she is honored to be part of this project and be present in Friday's event.

The doll statue was donated by the Kano Museum of Art from Shimane, Yasugi City in Japan to the Quirino Foundation which gave it to the museum for the public to see it.

One of the guests is the daughter of Tatsuo Kano, one responsible for the granting of clemency to the Japanese prisoners of war after sending petitions letters to Quirino on 1949.

In July 1953, Quirino finally granted executive clemency to those charged with war crimes, including 114 Japanese prisoners of war.

"My father has been sending petition letters to President Quirino since 1949 asking for a clemency for the Japanese war criminals," Kano Museum of Art Honorary Director Kayoko Kano said in her speech during the museum's soft opening.

"President Quirino gave the pardon to Japanese POWs as gesture in response to the idea of my father who thought forgiveness shall be the start of the friendship among two countries," she added. Kano said she is happy that Filipinos will be able to see the petition letters wrote by her father as it will be displayed at the 2nd level of the museum with the doll statue.

"Such gesture should not be forgotten by the Japanese," she said.

"I wish from my heart that peace around the world, including the Philippines and Japan will last forever," she added.

Cory Quirino, representative of President Elpidio Quirino Foundation, said they are very grateful and touched with the gesture of the Kano family.

"This beautiful madonna represents not just love but also forgiveness," Quirino said.

She said they are even happier after Mayor Jimmy Fresnedi said the city of Muntinlupa are open to have a "sister city agreement" with Yasugi City.

"The presence of the Kano family has formalized this dream and we hope to pursue this dream and make it a reality. We are ever grateful and we will continue to keep that memory and that friendship

alive between Kano family and Quirino family. To keep our history alive that we will never forget,” she added.

Other memories of the Japanese occupation in Muntinlupa City can be found on the 2nd level of the 5-storey museum located at Centennial Avenue in Barangay Tunasan.

The museum has yet to be opened to the public. Ella Dionisio/DMS

Latest Videos

·
· The Daily Manila Shimbun (DMS) was first distributed in Metro Manila on May 3, 1992 as the Kyodo News Daily (KND)

人類の戦争を終わらせ、恒久平和を創る使命を持った日本 —— そのさきがけは出雲！ ——

発展
統合
対立
共生のステージ

核 和 幸福 奇蹟 平和 荒魂

新しい「和の文化」研究会を立ち上げよう!

日本で生まれ、中国で始まった「和の文化」の理念と実践の研究。今、ここからすぐ始めよう!

2015年12月、北京で「和の文化」研究会設立に関する提案書」発表

志人のネットワークで「和の文化」を世界に広めよう

ヨーロッパで私たちと一緒に...

オランダではロレマさんが

オーストリアではイップさんが

中国でも...

ロシアでも...

アメリカでも...

国連 国民国連

1945年のヤルタ会議で合意された第二次世界大戦終結の五カ国を常任理事国とし、世界平和と加盟国の持続的国益を確保するための調停の場

国連 国民国連

2008年9月、北京で発表

核保有国

- アメリカ合衆国
- ロシア
- 中国
- イギリス
- フランス
- インド
- パキスタン
- 北朝鮮
- イスラエル

準核保有国

(核原料と技術を持ち、核兵器開発が可能な国)

日本、韓国、台湾、ミャンマー、イラン、シリア、トルコ、ドイツ、イタリア、オランダ、ベルギー、ギリシャ、スイス、スウェーデン、カナダ、ブラジル、アルゼンチン

企画：小松昭夫
制作：寺戸良信

イングリッド・ロレマ
オランダ芸術家・スツナー像作者

イップ・常子
オーストリア公認国家ガイド

核大国の結節点にある 朝鮮半島と日本列島

核保有を宣言した国で、核を放棄した国はありません。日本、韓国が米国「核の傘」の中にいる以上、北朝鮮が世界で初めて核を放棄するには、日本・韓国とともに人類の歴史に対して責任を果たすという、シナリオが必要で。

どの国もそうですが、核大国である中国、露国、米国も、国内に大きな問題を抱えています。国内の対立が臨界点を超えれば、核は最も危険な存在になります。この可能性を回避するためにも、朝鮮半島と日本列島の非核化は、核大国、保有国に、比類なき影響を与え、紛争地帯に希望と勇気を提供できるはず。これをともに平和構築のノウハウを確立することができれば、環日本海圏は、世界から最も期待される地域になるはず。これこそが戦後、繁栄を享受してきた日本と韓国の果たすべき役割ではないでしょうか。.....

小松昭夫 一般財団法人人間自然科学研究所理事長
小松電機産業株式会社 代表取締役

詳しくは書籍『朝鮮半島と日本列島の使命ー 3 核大国の結節点から和の時代が始まる』人間自然科学研究所 発行(2011年2月22日第1版第1刷・2014年11月23日第4版第1刷・増刷計5回)を参照ください。
次のURL、またはQRコードで、電子書籍データがダウンロードできます。
URL : <http://www.hns.gr.jp/books/chousenhanrantouto.html>



Korean Peninsula and Japanese Archipelago Where Nuclear Powers Meet

The Korean Peninsula and the Japanese Archipelago are just located where the three nuclear big powers, the U.S., Russia and China meet. We do not know any country which has abolished nuclear weapons after declaring that it succeeded in obtaining such weapons. As long as Japan and ROK are protected by the American nuclear umbrella, we really have to prepare a special scenario for DPRK to abandon their deadly weapons. It should be a scenario to illustrate a clear road for us, Japan, ROK and DPRK, to admit and take full responsibilities for the history of man.

The three nuclear big powers, China, Russia and America, have a lot of domestic problems like all the other countries in the world. If any of such problems should go beyond the critical point, the nuclear weapons they hold would be most dangerous things. Making the Korean Peninsula and the Japanese Archipelago a nuclear-free zone should provide all the nuclear powers, whether they are big or small, and all the disputing areas of the world with an incomparable example of hope and encouragement. This would also provide us a chance to develop and establish sure ways to build peace in the whole area of Japan Sea/East Sea. Then the other countries in the world would surely like follow our suit. I believe that this should be the No.1 project for Japan and ROK to cope with who have been enjoying thriving economy after the World War II.

(A partial quotation from The Shimane Daily Newspaper, Feb.12, 2009)

Akio Komatsu President Komatsu Electric Industries Co., Ltd.
Human, Nature & Science Institute Foundation

本紙1面のイメージ・イラストの最上段に、「人類の戦争を終わらせ、恒久平和を創る使命を持った日本——そのさがけは出雲！」とあります。

第2次世界大戦の敗戦を「終戦」と言ったことを、日本の「人類の戦争を終わらせる」使命の自覚として、未来に向け、積極的にとらえなおそうという提言です。それは、2度にわたる大戦の惨禍を体験した人類の叡智の結晶ともいえる日本国憲法の「平和主義」と重なります。

「さがけ」とは、他に先んじて動くこと、物事がそこから始まることを意味します。では、「なぜ、出雲から」なのでしょう？



地政学

2月9日の東京金融市場は大波乱に見舞われました。日経平均株価は前日比918円安と、2013年5月23日以来の下げ幅になり、為替相場は一時、2014年11月以来約1年3カ月ぶりに1ドル114円台に急上昇しました。

こうした金融市場の大変動の要因のひとつとして「地政学」のリスクの高まりに対する警戒感」という言葉をよく聞きます。

「地政学」を広辞苑で引くと「政治現象と地理的条件との関係を研究する学問」とあります。「国際政治のパワー関係を主に地理的にとらえて考える学問的な視点」とに解説する人もいます。歴史学、政治学、地理学、経済学、軍事学に加え、文化、文明、宗教、哲学などの様々な見地から研究が行われます。グローバル化が進んだ今日、国際政治における、将来の日本の外交と経済を考える際に不可欠な視点と言えるでしょう。

では、日本、そして出雲は、地政学的にどのように位置づけられるのでしょうか。

「和」の文化の発祥

日本列島は黒潮（日本海流）と対馬海流のふたつの暖流に囲まれています。このため、西日本では高温多湿、雨量も多く、落葉樹を含む多種類の樹木が生育し、とくに対馬海流の流れ込む山陰・北陸地方の日本海側には巨木が茂っています。火山、地震、雷など厳しい自然環境がある一方、山には落葉や火山灰がもたらす栄養豊富な表土があります。古来、魚介類、鳥類、小動物、山菜などの食料も豊富でした。

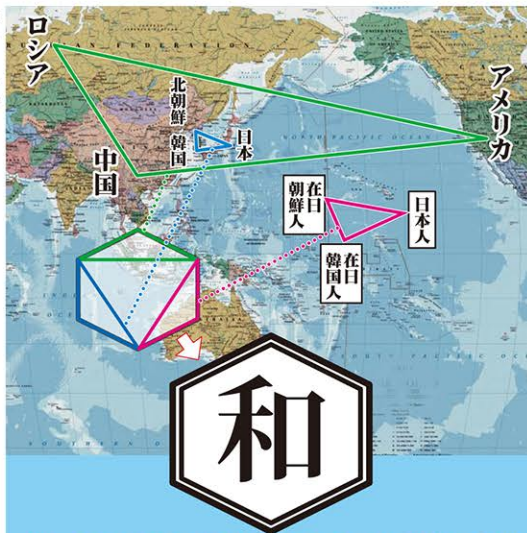
島根県・鳥取県の宍道湖・中海園、岡山県・山陰地域は、太古より大陸、半島から北方系民族、そして黒潮に乗った南方系民族が移り住み、多文化が融合した独自の一大文化圏が形成された地域と推測されます。

松江市の三重環濠のある田和山遺跡から、紀元前108年から西暦313年まで、朝鮮半島北部にあった漢朝の先秦機関・楽浪郡（らくろうぐん）の時代のものと推定される硯が出土しており、中国、朝鮮半島との交流が盛んだったことをうかがわれます。

「大陸、半島、南方から船で渡ってくる」ときに「板子、枚下は地獄」という環境下で脳が覚醒し、潜在能力が顕在化し、集団内の各個人が自分の役割を自覚し、上陸後、運命共同体としての分業体制が作

られ、「和」の文化をはぐくんできたのではないのでしょうか。人間自然科学研究の小松昭夫理事長の仮説です。

日本列島には、南から稲作がもたらされ、北からは中国・朝鮮半島を経由してタタラ製鉄が伝わりました。中国山地一帯は豊富で良質な砂鉄、繁茂する森林、急流で水量豊かな河といった条件がととのっており、日本列島におけるタタラ製鉄の中心の生産地でした。それは、古代の出雲国の中心地と



合わされば成り 散れば敗れる これ萬古の定理

(李承晩、安重根義士)

「ことを荒立てずにうまく調和していくこと」という一般的な理解に對して、「共感の舞台の上で、対立、統合・発展が繰り返される過程であり、静止状態ではなく、議論百出のダイナミックな動きそのもの、中庸の生き方から生まれる拡大する螺旋（らせん）運動」と定義しています。

松江市八雲町の熊野大社の前宮司で出雲大社教の千家達彦前管長（故人）が、聖徳太子の「和を以て貴しとなす」から「和」「国譲り

重なります。

そして、古代出雲は関東、甲信越、中部、大和、紀伊、四国、北九州に勢力の及ぶ、巨大な「クニ」だったという説があります。古事記などの神話の3分の1は出雲神話であり、全国にある神社の8割には出雲系の神が祭られていることにも、影響力の大きさが表れています。

その巨大な古代出雲国のオオクニヌシは、戦わずして、大和に「国譲り」をしたと神話は伝えています。「和」という言葉が浮かび上がってきます。

小松理事長はこの「和」について、

神話と、江戸時代の農政家・思想家の二宮尊徳翁の「推譲」から「譲」をとって「和譲」という言葉を造りました。小松理事長はこれを「和」に至る手段、目的の具現化のために、相手を尊重し、何を譲って、何を守るかの判断力」と説明しています。

地球をまるごと引く張り上げる

では、現代の出雲は、地政学的にどのように位置づけられるのでしょうか。

アメリカ、ロシア、中国の3大核大国に囲まれ、その3カ国の力が拮抗する「結節点」であり、北朝鮮（朝鮮民主主義共和国）の核開発で情勢が緊迫する朝鮮半島の対岸が出雲です。日本海には、韓国・朝鮮との歴史問題・領土問題の象徴となつて竹島・独島があります。

国内的には、少子高齢化、中山間地域の衰退という全国的な現象の最前端を走っています。島根県の県庁所在地・松江市から10キロ圏内に島根原子力発電所があります。現代の難問が凝縮している地域と言えるでしょう。

世界に目を転じると、核拡散の状況下、人類は運命を共にする「宇宙船地球号」の乗組員同士と言えます。世界規模で、古代人が大海原を渡った時と同じ危機に直面し、脳が覚醒する状況が生まれていると考えることができそうです。

小松理事長は、こう主張します。「核拡散、スマートホン、クラウド、コンピューティング、国際分業が進んだ今、我々が動けば、想像を超えるスピードで人々の意識が変わり、新しい「和」の文化が生まれる」と確信しています。核大国に囲まれた日本、韓国、朝鮮の3カ国が「アメリカ、ロシア、中国の積極的な賛同と協力を得て、非核地帯となり、核保有国の段階的な核削減を促し、この地域から世界恒久平和のモデルを生み出す使命がある」と考えています。難問が凝縮している出雲が、「和譲」の精神を生かし、そのさがけとなることで、現代の地政学的な役割ではないのでしょうか。

本紙第10号の「悠々の河」意宇川紀行①で、ヤツカミズオミズノミコトが朝鮮半島と隠岐の島、越（北陸）から4つの土地を引いてきて島根半島を作ったという神話を紹介しました。この「国引き神話」にちなみ、現代の出雲には、地球をまるごと引く張り上げ、人類を新たな段階に進化させる役割が求められていると言えるでしょう。

（交易場 修）

『本の案内』

岩より水

Not the Rock, but the Water

オランダ・ハーグで、人間自然科学研究所の小松昭夫理事長を紹介する本が出版されました。

女性初のノーベル平和賞受賞者ベルタ・フォン・ズットナー胸像の作者であるオランダの芸術家で、平和活動家でもあるイングリッド・ロメさんに、小松理事長があてた「和」の文化創造をめざして」と題する書簡。オランダの哲学者フーリックス・ビラヌーバさんによる、河川の精神・海洋の精神といった視点から、小松理事長の理念と活動を「分析」紹介した、本書の表題となつている「岩より水」という論文。その他、書籍「悠々の河」紹介、写真などが収められているA6判72ページの満洲な本です。

日本語、英語、韓国語、中国語、ドイツ語の5カ国語に翻訳されています。



世界の縁結びの地

出雲のルーツ

「知らず、生れ死ぬる人いづかたより来りて、いづかたへか去る。」
大地震、竜巻、あるいは大火事、飢饉などが相次いだ鎌倉時代(13世紀)、鴨長明が著した『方丈記』の一節です。「私たはどこから来て、どこへ行くのか。」この言葉は、人間の生命についての哲学的な自問であると同時に、人類のルーツ(根源)についての問いかけにもなりえます。

奇しくも、2016年2月10日という同じ発行日の2冊の本があります。「日本人はどこから来たのか?」(海部陽介著・文藝春秋)、『古代倭王の正体——海を越えてきた覇者たちの興亡』(小林恵子著・祥伝社)。いずれも、人類として日本人のルーツの解明に挑んだ本です。

『日本人はどこから来たのか?』

—万里を踏破し
海を越えた祖先

「人類は誕生から700万年前の歴史を持つ」と言われています。20万年前に、ホモ・サピエンスと呼ばれる現生人類が登場します。そして、5万年前、人類はアフリカから地球全体に広がったとされています。

本書の舞台は、5万年〜1万年前の「後期旧石器時代」です。ヨーロッパで、この時代の文化を生み出したのが、アフリカから移ってきたクロマニヨン人といわれています。同じ時期にアジアへ広がった初期のホモ・サピエンスとはどのような人々で、彼らはどのようなルートで日本列島まで広がり、それらの土地でどのような才覚を発揮し、どのような後期旧石器文化を生み出したか。これが本書のテーマです。

人類学者である著者は、遺跡から見つかった人骨化石の形態学、考古学、DNAの研究など異なる分野の成果を統合し、特に「遺跡証拠の厳密な解釈」に重きを置いて、新しいアジアの遺跡地図を作り上げます。そこから浮かび上がってきたのが、人類がアフリカから日本列島に到達するまでの大

移動史の新しい学説でした。

著者が10年に及ぶ研究の末に積み上げた新説は、次のように要約できます。

4万8000年前、アフリカを出た私たちの祖先ホモ・サピエンスは、西アジアからヒマラヤ山脈を南北に隔て、別れて拡散。ひとつは、インドから東南アジアへ進んだ「南ルート」をたどります。もうひとつの、ヒマラヤ「北ルート」へ回った集団は南シベリアに進み、北極圏にまで至ります。さらにモンゴルを経て、4万年前頃には中国、朝鮮半島など東アジアに到達。

1万年後、ヒマラヤ山脈をはさんで南北に別れたそれぞれの集団が東アジアで再会し、混じり合う——これが世界各地の遺跡年代をマッピングすることで得られたシナリオです。

そして、3万8000年前から、



日本へ対馬、沖縄、北海道の3ルートから別々に、初めて祖先が足を踏み入れたと、著者は主張します。

3ルートのうち最も早く日本に入つたのが対馬海峡を渡り九州北部へ至るルートで、「最初の日本人は、航海者だった」というのが、本書の重要なポイントです。



次に、沖縄、台湾から、全長1200kmにも及ぶ琉球列島を北上するルートです。台湾から列島最南端の与那国島に渡るには、フィリピン周辺から北上する、流速は速いところで毎秒2mに達するという黒潮を横断し、100kmをはるかに超える航海が必要です。

次に、著者は「その本当の困難さを知るには、航海の再現実験しかない」と、インターネットで資金を募り、章(アシ)

を使った古代舟を復元し、与那国島→西表島、台湾→与那国島の「3万年前の航海、徹底再現プロジェクト」に挑んでいます。

3ルートのうち最も遅いルートは北海道。2万5000年前、突如現れた特殊な石器(細石刃を使った植利器)が、シベリアから南下してきた祖先がいたことを示しているといえます。

『古代倭王の正体』

—海を越えてきた
覇者たちの興亡

先に紹介した「日本人はどこから来たのか?」が人類学者の著作であるのに対し、本書は文献を重視する歴史家の著作です。中国や朝鮮半島の歴史書『資治通鑑』(しじつがん)、『後漢書』、『三国志』などからふんだんに引用されています。

本書の著者紹介に「小林恵子(やすこ) 1936年生まれ:『記紀』を偏重する日本史学会と一線を画し、日本古代史をつねに国際的視野から見つめ、従来の定説を覆しつづける」とあります。この紹介文が示すように、本書にはまさに大胆な説が展開されています。帯の文言で「過激」です。「卑弥呼、神武、ヤマトタケル、応神、雄略、聖徳太子……日本列島生まれは一人もいない!」

「まえがき」にはこう記されています。「列島の本来の住人は、南東アジアで紀元前の数千年間にわたって活躍した倭人の後裔であるが、紀元前数世紀から、中国の王朝の遷変や侵略により、江南(長江の南)や西アジアまで広範囲にわたる渡来者があった。……それが七世紀初頭の聖徳太子(突然可汗達頭)とつづつかたタタラドクの時代まで続く。……唐が建国すると列島は唐との攻防に終始し、半島とともに東アジアの一国となった。やがて平安時代末から日本の中で内乱が続く、日本人の世界に

九州も本州で、縄文の系譜を継ぐ在来系の人々との大規模な混血が進んでいた」。

そして、著者はこう結びます。「偉大な旅を続けてきた旧石器時代の祖先たちの血は、今もこの列島の私たちの血の中に、様々なたちで継承され続けている」。

対する視野はますます日本国内に限られるようになったのである。本書で私は、邪馬台国の実態を明らかにするとともに、七世紀に大陸から最後の為政者が渡来するまでの二〇〇年足らずの間、世界を舞台にした倭国の実像と興亡を明かにしてゆく。



小林恵子
「古代倭王の正体」
「日本列島生まれは一人もいない!」
「倭王、神武、ヤマトタケル、応神、雄略、聖徳太子……日本列島生まれは一人もいない!」

また、第一部第一章の題は「奄美大島の邪馬台国は海洋貿易大國だったのか?」です。「日本人はどこから来たのか?」の沖縄ルーツを連想させます。

さらに、倭王(初期天皇)と高句麗王、新羅王、百済王たちが同一人物だったり、入れ替わったり、列島と半島を盛んに往き来していたという大胆な説が繰り広げられています。

「あとがき」に、「日本オリエント学会で半世紀にわたって、三笠宮崇仁親王殿下に何かと学問上のお世話をしていただきました。……常識外れの私説に対して一度も疑義のお言葉をいただいたことはありません」。

国際的「縁結び」の象徴

―ベルタ・フォン・ズットナーの胸像―

『古代倭王の正体』に描かれた「紀元前から6世紀末まで、ユーラシアを貫く壮大な古代史」から浮かび上がってくる、西アジア―中央アジア―中国―朝鮮半島―日本列島を股にかけた人々の旺盛な交流と、日本海を自在に往き来する航海者たちの果敢さには感嘆させられます。

そして、日本海に流れ込む暖流・対馬海流の存在が目が向きます。『日本人はどこから来たのか?』には、対馬・沖縄・北海道の3つのルートが挙げられていましたが、対馬海流を横切って北九州に至るのではなく、そのまま海流に乗って、沿岸の出雲・若狭・能登、そして新潟に着くルートが想定されます。

とりわけ、日本海に突き出た島根半島に、最初にコッソリと突き当たるようにしてたり着いた、大陸の先端技術を持ってきた人々も多かったのではないのでしょうか。

山東省は、孔子、孟子、孫子、墨子、諸葛孔明など日本でもよく知られた人物を輩出している地域です。人間自然科学研究所は、棗荘市で彌兵衛翁のほかに孔子・孟子像も制作。山東省東営市から贈られた孫子像、研究所が杉原弘一郎氏寺岡多佳氏の仲介で内海弘子氏から



ベルタ・フォン・ズットナーの胸像

松江市八雲町を流れる意宇川の畔には、水の偉人・周藤彌兵衛翁の銅像が建っています。これは、島根県の妻伊川から東、鳥取県の天神川から西の地域の出身者で編成された、陸軍の松江63連隊に多数の戦没者が出た台児荘(たいじそう)の戦いの戦場となつた、中国山東省棗荘(そうそう)市を依頼(デザイン)は島根県飯南町出身の高田勲氏に依頼したものです。



中国式庭園・燕趙園に西王母と八仙人像と共に並ぶ孔子、孟子、孫子像



2006年3月 西王母と八仙人像建立式

ら寄贈を受けた中国伝説の女神・西王母と八仙人(日本の七福神の祖)像が、鳥取県の片山善博知事・平井伸治副知事の賛同を得て、孔子・孟子像と共に、鳥取県湯梨浜町の国内最大の中国式庭園・燕趙園(本田斉園長)に建立されています。

そして、彌兵衛翁像をきっかけに、オランダ・ハーグで作られた、女性初のノーベル平和賞受賞者ベルタ・フォン・ズットナーの胸像が出雲に渡りました。

ズットナーは反戦小説『武器を捨てよ』を著し、「空の野蠻化」という論文で空爆による未曾有の悲惨さを警告、1914年6月21日に亡くなっています。その1週間後の6月28日、オーストリア・ハンガリー帝国の皇太子夫妻が銃撃されるサラエボ事件が起き、これをきっかけに第1次世界大戦が勃発したという経緯があります。

2014年12月、オーストリア・ウィーンで「核兵器の人道的影響」に関する国際会議が開催されました。その中心的役割を担ったのがオーストリア軍縮大使のアレクサンダー・クメント氏です。クメント氏はこれに先立つ8月6日、広島を訪ね、2015年4月、国連本部で開かれたNPT核拡散防止条約「再検討会議」では、「国際法によって核兵器を持つことと自衛を禁止し、廃絶するために世界は力を合わせるべきだ」という前例のない提案をしています。このような流れを背景に、4月10日・11日、被爆地・広島で「2016年G7外相会合」が開催されます。



タイ国のピシェット プットルン氏・ナルモン プットルン氏から贈られた八仙人図 (174 cm×103 cm)

オランダから渡来したズットナーの胸像は、ウィーンを皮切りとして、あたかもトロイの木馬から飛び出したギリシャ兵のように、出雲の地を起点に、世界各地に広がろうとしています。国際的な「縁結び」を象徴する存在が、今、羽ばたきの時を迎えているのです。(交易場 修)

《後記》

「ゆう科学通信」は皆様からのご意見、情報を礎に発信していきます。

ご投稿はメール、ファクスでお願いいたします。



一村一志

「夢の芽生える文化」創造のプラットホーム
「八雲志人館」は、将来に向けて持続可能な
地域を創出することをめざして活動します。

1月26日から30日までの5日間、天皇、皇后両陛下がフィリピンを訪問されました。国交正常化60周年を機会とし、友好親善を深めることが主な目的でした。27日には、太平洋戦でのフィリピン人犠牲者などが眠る「無名戦士の墓」に供花。29日には、1973年（昭和48年）に日本政府によってマニラ郊外に建立された「比島戦没者の碑」に供花されました。

日本とフィリピン



マニラに向かう日本軍戦車隊

膨大な数の無辜の市民が犠牲に

日本とフィリピンの関係は古く、16世紀の豊臣秀吉の時代には、朱印船貿易が行われていました。17世紀には、3000人へのぼる日本人街もできましたが、日本の鎖国令により、フィリピンとの交流は一時途絶えます。

フィリピンは、16世紀末から19世紀末までスペインの植民地でした。植民地時代に、スペイン人はローマ・カトリックの布教を進めました。

1898年に勃発したアメリカ・スペイン戦争により、フィリピンの統治権は、スペインから勝利者・アメリカに譲渡されます。アメリカによる植民地化にフィリピンは猛烈に抵抗しましたが、アメリカ軍が約60万人のフィリピン人を殺され（アメリカ・フィリピン戦争Ⅱ1899～1902年）、抵抗は鎮圧されました。

1910年代には、農園経営のため日本人が大量に移民し、人口1万人を超える日本人街が形成されていきました。1941年12月8日、日本海軍の真珠湾攻撃により太平洋戦争が始まると同時に、日本陸軍は米軍を放逐してマニラに上陸、1942年にはフィリピン全土を占領しました。

しかし、1944年末には米軍が反攻上陸し、フィリピンは日本の激戦地となりました。111万人といわれるフィリピン人が犠牲になり、日本人も51万8000人が亡くなりました。

「フィリピンでは、先の戦争において、フィリピン人、米国人、日本人の多くの命が失われました。中でもマニラの市街戦においては、膨大な数に及ぶ無辜（むこ）のフィリピン市民が犠牲になりました。私どもはこのことを常に心に置き、この度の訪問を果たしていきたく思っています。」このたびのフィリピン訪問問出発前の天皇陛下のお言葉です。

サンフランシスコ講和条約と天皇誕生日

1945年（昭和20年）、広島、長崎への原爆投下を経て、8月15日、日本はポツダム宣言を受諾し「終戦」を迎えました。9月2日、東京湾上のアメリカ戦艦ミズーリにおいて、降伏文書の調印が行われたのに続いて、その後の日本の「国のたち」を決める出来事が続きました。

1946年（昭和21年）、極東国際軍事裁判（東京裁判）が始まり、4月29日、日本人戦犯の起訴が行われました。5月3日から審理開始、1948年（昭和23年）11月12日刑の宣告、12月23日絞首刑が執行されました。起訴が行われた4月29日は昭和天皇の誕生日、絞首刑執行の12月23日は平成天皇（当時皇太子）の誕生日でした。



サンフランシスコ講和条約に調印する吉田茂首相



条約調印記念切手（8円）

また、条約発効直前の1952年1月18日、朝鮮戦争下の韓国政府が突如として李承晩ラインの宣言を行い、排他的経済水域を設定し、竹島（独島）に韓国軍が上陸しました。この海域内での漁業は、韓国籍漁船以外許されず、これに違反したとされた漁船は拿捕、銃撃されました。日韓基本条約締結の際の韓日漁業協定の成立（1965年）により、ラインが廃止されるまでの13年間に、韓国による日本人抑留者は3929人、拿捕された船舶数328隻、死傷者44人に達しました。

講和条約と同時に、日米安全保障条約も締結されました。日本はこの2つの条約により国際社会に復帰したのです。しかし、講和条約を締結するにあたって、当時の日本は、吉田茂内閣や保守系政党が西側陣営との「単独講和」を推進、共産党をはじめとする左派勢力は東側（共産主義）陣営を求めた「全面講和」を強く主張、国論が激しく分裂していました。結局日本は「単独講和」を選択し、以後は西側陣営の一員として経済発展を遂げたのでした。このように4月28日は、日本が国家として主権を回復した日ですが、一方で領土問題に関しては遺憾が残されました。



マニラ

ライオンズクラブの

「友情」

戦後の日本に対して、フィリピンから示された「友情」の例をあげます。

サンフランシスコ講和条約発効前の、1952年（昭和27年）3月15日、マニラ・ライオンズクラブのメンバーにより「東京ライオンズクラブ」が誕生しました。敗戦国日本の組織のメンバーになる存在などなかった時代に、フィリピンのクラブが名乗りをあげ、日本で初めて設立が実現したのです。

これを皮切りに、表のように日本国内に次々にライオンズクラブが設立されていきました。こうした経過を経て、日本は

戦後世界で経済発展を遂げていったのです。民間団体であるマニラのライオンズクラブが、西側陣営への扉を開いてくれたといえるでしょう。

ちなみに、ライオンズクラブは、1917年6月、アメリカ・シカゴでメルビン・ジョーシズ（保険業）の提唱により誕生した、地域への社会奉仕やドネーション（寄付・寄贈）を理念に掲げる実業家の集団です。現在、世界で4万6000クラブ、会員136万人（日本国内では約3300クラブ、約11万人）を擁する世界最大の奉仕クラブ組織です。

1952年8月	東京ライオンズクラブのメンバーで神奈川県・横浜ライオンズクラブ結成
1953年2月	東京ライオンズクラブのメンバーで兵庫県・神戸ライオンズクラブ結成、
4月	神戸ライオンズクラブのメンバーで大阪ライオンズクラブ結成
10月	神戸ライオンズクラブのメンバーで愛媛県・松山ライオンズクラブ結成
10月	神戸ライオンズクラブのメンバーで京都ライオンズクラブ結成
1954年8月	大阪ライオンズクラブのメンバーで愛知県・名古屋ライオンズクラブ結成
11月	大阪ライオンズクラブのメンバーで岡山ライオンズクラブ結成
12月	神戸ライオンズクラブのメンバーで兵庫県・姫路ライオンズクラブ結成
1955年1月	神戸ライオンズクラブのメンバーで広島ライオンズクラブが結成され、日本のクラブ数は10クラブに達した

許し難きを許す



加納莞番

鳥根県安来市広瀬町布部に、加納莞番（かんらい）という洋画家がいました。従軍画家などを経て戦後に帰郷した莞番は、フィリピンから復員した元軍人との出会いをきっかけに、「終戦」によりフィリピン刑務所に「BC級戦犯」として収容され

ていた日本兵108名（うち死刑囚59名）の釈放助命嘆願をおこし、1953年7月、ついに目的を達成させました。

布部という村から送った嘆願の手紙は、当時のフィリピンのエルビディオ・キリノ大統領にあって38通はじめ、マッカーサー元帥、インドのネル首相、ローマ法王等へあてたものの総数は300通以上に及びました。

加納莞番は、キリノ大統領にあってこう書きました。

「閣下 第一嘆願書を奉呈してから200日の間、日本人であるが故に負わなければならない戦争の極悪と罪の意識を反省してまいりました。厳粛な罪の意識と神への深い信念の履行から、裁きの前にある己を認識いたしました。そして「肉体で生きている生活は、

神の子としての信念での生活」ということを悟りました。『許し難きを許す』という奇跡によってのみ人類に恒久的の平和をもたらし、『目には目を』ということでは決して達成し得ないということ、これを、これまで以上に強く感ずる次第であります」。

これに対し、キリノ大統領は日本人戦犯赦免の際に、次のような声明を出しました。

「私はフィリピン服役中の日本人戦犯にフィリピン国会の賛同を必要とする大赦ではない赦免を及ぼした。私は妻と三人の子供とその他五人の家族を日本人に殺されたため、彼等を赦そうとはよもや思ってもみなかった。私は私の子供や、国民がやがてはわ

が国の恒久的の利益の友となるかもしれない国民に、私から憎悪をうけつがしめないことを欲するが故に、これを行うのである。結局運命が私達を隣人となさしめた」。

いずれもまことに深く、重い、心揺さぶられる言葉が記されています。

このたびの訪問の際の晩餐会で、天皇陛下は日米の熾烈な戦闘で多くのフィリピン人が犠牲になったことに言及し、キリノ大統領の「声明」に響き合うような、こんな言葉を述べられました。

「私も日本人が決して忘れてはならない」。

戦後を生きた私たち日本人の一人ひとりが心に刻むべき言葉ではないでしょうか。（交易場修）

平和の花 スノードロップ プロジェクト

春を告げる花 スノードロップ

さらさらと心地よい溪流の音、川底の小さな石たちのせせらぎが水の交響曲を奏でる。岩を乗り越えて溢れ落ちる水飛沫は、白い衣装をまとった妖精たちの乱舞。踊り疲れて岸辺で休んでいると凍てつくような雨が降り、螺旋状を描いて河原風が吹く。

痛めつけられた妖精たちは白い粉雪になった。哀れんだ太陽の神は春を告げる

スノードロップに姿を変えてくれた。

雪の雫・雪の鐘・待雪草とも呼ばれている花。夜になると花弁を閉じ日中に吸収した温かい空気を溜め込む。可憐な白い小さな花弁が雪を割って顔を出すと、待っていたかのように陽の光は、その年の最初の花と褒め讃えた。

この花に出会うと新しい年は幸運に恵まれるとの伝説が残されている。意字川の岸辺に植えられたスノードロップの花。花言葉にも似て、周藤彌兵衛が切り開いた岩山の水流の音と共に、「希望と慰め」を見せてくれる。



作：原美代子



雪とスノードロップ（1月26日撮影）

〈後記〉
「ゆう科学通信」は皆様からのご意見、情報を礎に発信していきます。
ご投稿はメール、ファクスでお願いいたします。

対立の文明から共生の文化が生まれる祈りの活動 光の柱プロジェクト



沖縄

糸満市
沖縄平和祈念公園



島根

松江市
人間自然科学研究所



鳥取

湯梨浜町
中国庭園 燕趙園

広域クロスオーバー管理で新産業創出、地方創生を推進
飛躍的に進化 雷害・災害に強く 水関連施設を最適管理

クラウドの先駆け 総合水管理システム

2000年発売以来

やくも **水神**
yakumo
Suishin

470自治体
12,000施設突破

水のICTであなたの街 日本 世界が変わる



2003年 ドコモデータセンター・Rubyで構築
東北総合通信局長表彰
福島県南会津町受賞
平成30年度 水道イノベーション賞特別賞
令和元年度 日本水道協会

空間価値を創造 節電・省エネ・衛生管理に
happy gate **monban** 門番

1980年発売以来
177,000台達成
2019年9月現在
東京築地・豊洲新市場に大量採用



市場創造メーカーの責任
30年前の部品も安定供給
小松電機・イカリ海苔・大成FC 共同企画

高防虫 マジック
誘引阻止率 80%

静音・高耐久
門番チューブ・自動復帰

安全・安心
停電時の非常脱出・煙遮断

外面 内面
虫の侵入を防ぎ いったん虫を外へ誘導

動作音 10% 減

省メンテナンス

ラクラク脱出

高気密機構

社 是 社業を通じて社会に喜びの輪を広げよう
1981年制定
小松電機産業株式会社
<http://www.komatsuelec.co.jp>
松江市乃木福富町 735-188 湖南テクノパーク内 TEL 050-3161-2490 東京・大阪・仙台・松江・ソウル・バンコク

経営理念 おもしろ おかしく たのしく ゆかいに
行動指針 三方良し 後利
人間自然科学研究所
<http://www.hns.gr.jp>
水神災害
関連記事

羅針盤

Opinion Analysts

早稲田大学大学院政治学研究科教授

片山 善博



社会的共通資本説く

今こそ宇沢弘文に学ぼう

先日、角川文化振興財団の城山三郎賞が、『資本主義と闘った男―宇沢弘文と経済学の世界』(講談社)の著者である佐々木実さんに贈られた。城山三郎賞は、経済小説などで数多くの名作を残した城山三郎にちなみ、小説や評論、ノンフィクションなどの中からすぐれた作品を選んで顕彰するものである。

宇沢弘文は1928年に米子市で生まれ、アメリカで活躍した世界的数理経済学者である。その後1968年に帰国し、東京大学経済学部教授などを務めている。『資本主義と闘った男』は、その宇沢弘文の人生の軌跡、美点も欠点も含めた人となり、経済学における卓抜した業績などを詳らかにしている。宇沢弘文を理解するための格好の書である。

像を一段と豊かにしてくれ。また、彼ら一人一人の経済理論も丁寧に紹介されていて、わかりやすい経済学史として読むこともできる。それはそれとしつつ、私は『資本主義と闘った男』が、宇沢弘文の復権ないし再評価のきっかけになるのではないかと期待している。実は、アメリカでの名声に比べ、帰国後の宇沢の評価は必ずしも高くなかった。それは世の中がひたすら経済成長を追い求めた中で、宇沢は行き過ぎた資本

主義がもたらす環境や人間の破壊に鋭く警鐘を鳴らしていたことによる。経済界でも学会でも、そんな孤高の宇沢を快く思わない人は少なかった。宇沢は「社会的共通資本」という概念を提唱した。これは人々の暮らしや仕事に不可欠な社会共通の資産のこと。水や空気などの自然環境、鉄道や空港などの社会インフラ、それに医療や教育などのシステムを指す。社会的共通資本は官僚制的に管理しては

いけないし、市場経済に委ねてもいけない。深い見識と専門的知見を持った人たちの手で公正に管理されなければならぬと宇沢は説いたが、まったくその通りだと思う。では社会的共通資本を取り巻く現状はどうか。空港の民営化が進行し、水道すら民営化できる根拠法がそそくさと整えられた。公共図書館とそれを支える司書は指定管理制度により、あちこちで熾烈な価格競争にさらされている。こんなありさまに天国の宇沢

はきっと憤慨しているに違いない。こんな時代であればこそ、『資本主義と闘った男』を通じて、宇沢弘文の思想と考えが世の中に広く深く浸透することを願っている。

プロフィール

かたやま・よしひろ
岡山市出身。東大法学部卒。1974年、自治省(現総務省)入り。鳥取県総務部長、自治省固定資産税課長などを歴任し、99年から鳥取県知事を2期。慶応大教授を経て2010年9月から1年間、総務相を務め、11年9月、同大に復職。17年4月から現職。68歳。

毎週日曜日に掲載します